

鶴が丘だより

2017年度第1回

家族教室・講演会

統合失調症について学ぶ
くりカバリーに向けて

副院長 秋元 洋一

今月と来月は、9月2日に開催した日家族教室・講演会日の模様をお送りします。

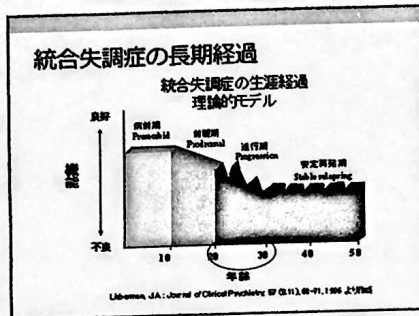
みなさん、こんにちは。今日は、ある日の診察場面のエピソードを交えながら、統合失調症の経過、環境の相互作用等についてお話しします。

統合失調症は、様々な経過を辿る疾患です。現代では、薬の開発やリハビリテーション、支援体制の充実が進み、再発率は低下して

きていると言われています。

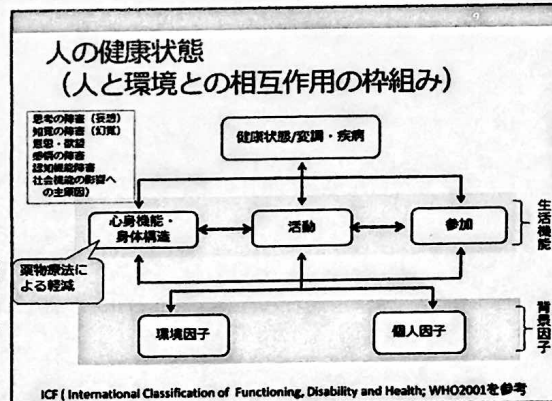
①ある日の診療場面から

この方は、若い頃に入退院を繰り返していましたが、その後作業所に通いながら長期に安定していました。40歳の時に、お父様が他界し一時的に不安定となりましたが、現在は周囲との関わりや活動場所もあり安定しています。



すべての方が当てはまるわけではありませんが、理論的なモデルでは、症状が出る現するの20〜30代が多く、徐々に病状が安定するといわれています。そこで重要なのは、再発予防と生活機能の向上です。更には、患者様自身が、

主観的に生活の満足感を得られることが重要であると言われている。その過程をリカバリーと呼んでいます。



右はWHOの人の健康状態に関する図(国際生活機能分類)です。医療は、心身機能にアプローチしますが、活動や参加などに関連している。他のことにも視点を向ける必要があります。また、社会資源や制度等の活用で活動や参加の機会が増え、環境調整ができることで、症状の受け止め方が変化し、良い方向につながる可能性があります。今日のような家族教室などの心理的アプローチも大切なことです。

ある日の
鶴が丘

新しい先生を
紹介します

片桐 達志 先生



●精神科に従事し、12年目になりました。現在は、診療とともに対人関係療法やリエゾン精神医学等を専門としていきます。

●長年の車通勤で、ラジオを聴くことに飽き、最近では、YouTubeでナイツや東京03を聞いています。

●月曜日午前(いこの森)と火曜日(鶴が丘)に勤務します。よろしくお願いします。

